

海況速報

昭和63年度 第5号 (No. 5)

昭和63年12月23日

北海道立水産試験場

11月末～12月前半期の海況

この時期は、全般に表面での冷却に伴う対流混合が進んで、中層まで同じような水温を示してきます。以下に各海域別の水温分布の特徴を示します。

[日本海域]

沿岸域では、津軽海峡西口で表面～100m層まで1.4℃台を示し、最も高くなっています。10℃の等温線は44°N付近まで北上しています。積丹沖では全般に暖水域が沖合へ広がっています。北部沿岸域では7～8℃台の暖水域が礼文島北沖に達しています。

41°～42°Nの道南沖合域では、50m層で138°～139°E付近に1～2℃台の冷水が存在しており、その沖合は暖かくなっています。

[オホーツク海域]

北部沿岸域では最高7℃台を示していますが、この海域を除く表面～50m層までの水温は4℃以下に低下しています。しかし、50m層では2℃以下の中冷水はみられません。100m層の沖合域にはまだ0℃以下のマイナス水温域がみられています。

[太平洋海域]

道南～日高沖合海域では下層まではほぼ11～12℃台の水温域が広がっていますが、日高沖の100m層には10℃以下の冷水域がみられました。

道東沿岸域の表面～50m層水温はほぼ5～6℃を示していました。沖合域では146°E付近で暖水塊と思われる一部がみられました(0～50m層水温: 8℃、100m層水温: 5℃)。100m層では、42°N付近の144°～146°E間に1～2℃台を示す親潮水の中心部がみられます。

(中央水試 海洋部)

稚内水試(北洋丸)	道北日本海域	12.12～14
＊	オホーツク海域	12.5～8
釧路水試(北辰丸)	道東太平洋海域	12.7～9
函館水試(金根丸)	道南	11.28～29
中央水試(おやしお丸)	道央～道南日本海域	11.28～12.2





